

観光拠点としての桑名港と親水公園の設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1240120 西脇 大祐

指導教員 重山 陽一郎

1.背景

桑名市は多くの観光資源に加え城下町、港町、宿場町として栄えた時代背景を持つ。対象敷地周辺には七里の渡し跡や桑名城関連史跡といった観光資源が点在するが、現状の桑名市街の中心である桑名駅からは1.5km程離れており、立地上不利である。



図1：敷地と周辺との位置関係
(国土地理院地図に筆者加筆)

2.目的

桑名市の新たな観光の拠点となる港と広場を提案する。水上交通の拠点を設けることで新たな人の流れを生み出し、「港」を中心に市民と観光客の両方で賑わう空間を目指す。

3.対象敷地



図2：対象敷地地図（国土地理院地図に筆者加筆）

対象敷地は三重県桑名市、揖斐川に面した柿安コミュニティパークとその周辺（図2）とする。敷地南側には旧桑名城跡、西側には旧東海道が通っており、周辺には六華苑をはじめとした観光施設が点在する。

4.設計方針

1)「港」の再整備

かつて桑名と熱田を結ぶ、東海道中の主要な航路通称「七里の渡し」が存在し、多くの人々が船に乗って桑名の地を訪れた。旧桑名城堀を拡張し、新たに人が行き交う港を整備することで、かつての港からの人の流れと賑わいを創出する。

七里の渡しの区間の航路の整備に加え、伊勢までの区間の航路を整備する。利便性、速達性には欠ける水上輸送ではあるが、先人たちと同じ手段で旅をすることの価値を提唱する。



図3 七里の渡し航路について
(国土地理院地図に筆者加筆)

2) 水辺を生かした公園の再整備

対象敷地周辺には、木曾三川の揖斐川、長良川が流れ、旧桑名城跡の堀跡という歴史的価値のある水辺空間が存在する。しかし、現状ではこれらと公園

との関係性は希薄となっており、貴重な水辺空間が活かしきれていない。これらの関係性を高めることで、水辺を中心とした賑わいの場の創出を目指す。



図4：川と広場を分断するよう連なるパラペット（筆者撮影）

3）シンボルとしての蟠龍櫓の再建

かつて桑名のシンボルとして蟠龍櫓が存在し、桑名港の象徴として、また桑名港の物見櫓としての役割を担っていた。

2003年、県の試みにより蟠龍櫓は水門管理棟兼資料館として再建されたのだが、配置をはじめ桑名のシンボルにふさわしいものであるとは言い難い。そこで、現行の桑名市博物館と併せた展示機能を追加し、新たな蟠龍櫓を提案する。桑名市が持つ歴史に触れることができると同時に、再び桑名のランドマークとして認知される施設を目指す。



図5：現在の蟠龍櫓（筆者撮影）



図6：かつての蟠龍櫓と桑名港（東海道五十三次/歌川広重）

5. 設計



図7：全体配置図

a) 船着場の設計

旧桑名城堀の一部を拡幅し、船着場を計画する。桑名城跡には一部当時の石垣が残っており、文化財として指定されている。この区間を除き、四日市港開港時に整備された護岸部分を拡幅して港とする。



図8 対岸から船着場を眺める

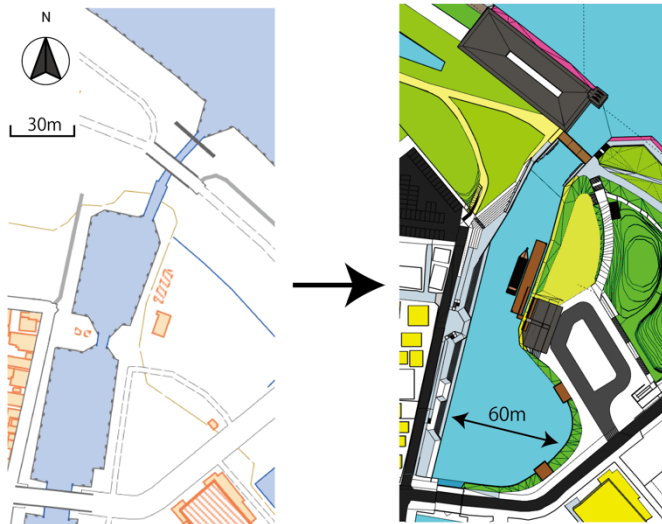


図9 拡幅前後の堀形状



図10：船着場周辺の水辺を歩く

b)待合所建築の設計

待合所、飲食設備等の機能を備えた港の拠点となる建築を計画する。港側にはウッドデッキの屋外飲食スペースを設け、発着する船や人の様子を眺めながら滞在することができる。



図11 待合所建築外観



図12：待合所の内観パース

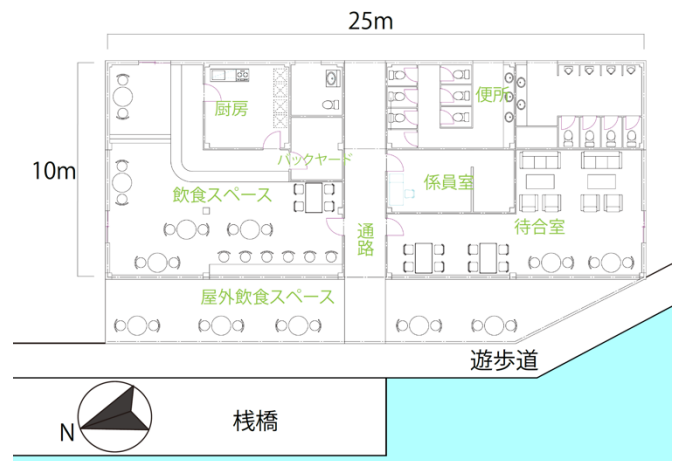


図13 待合所建築平面図

c)堤防と防潮水門の設計

遊歩道と揖斐川の関係性を高めるため、堤防の形状の変更を行う。現状の遊歩道では、河川との間がバラベツで隔てられており、川との関係性が薄れてしまっている。そこで、堤防の最高高さは保持しつつ、緩やかな傾斜でつなぐことで、防災機能を保持したまま河川との関係性を高める計画とした。

また、港の計画内に挙げた水路の拡幅に伴い、防潮水門も併せて計画する。

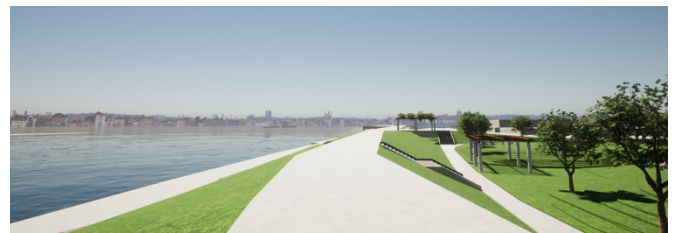


図14 堤防を歩く

d)広場と遊歩道の設計

観光客と地域住民の両方が集まる空間として、芝生広場を設ける。芝生広場内には滞留できる空間として複数のパーゴラを計画した。資料館へ向かう明確な動線のほか、芝生広場内には傾斜を利用して導くような比較的曖昧な動線を計画し、自由に行き来することが可能な空間として計画した。



図15 広場の様子

e)植栽の計画

広場、遊歩道など、それぞれの場所にに応じて植栽を計画する。玄関口とも言える船乗り場やロータリーは市の木であるハナミズキや、九華公園の名物である桜の木などを中心に、複数の種類の樹木により構成する。遊歩道沿いには低木など背丈の異なる植栽を計画することとし、歩いていて変化を楽しめる計画とした。また、資料館から七里の渡しへと続く歩道沿いには、東海道と馴染み深い松並木を構成し、東西で異なる植栽を楽しむことができる計画とした。



図 16 緑豊かな水辺を歩く

f)蟠龍櫓兼資料館の設計

現行の展示室の機能を拡張し、資料館として蟠龍櫓を再建する。現行の桑名市博物館の展示機能と同等の展示機能を確保し、桑名城関連史跡を中心とした展示を行う。また、川に沿って連なるような石垣と建築、水面に迫り出すような配置で櫓を計画することで、かつて浮世絵に描かれたような外観を再現した。

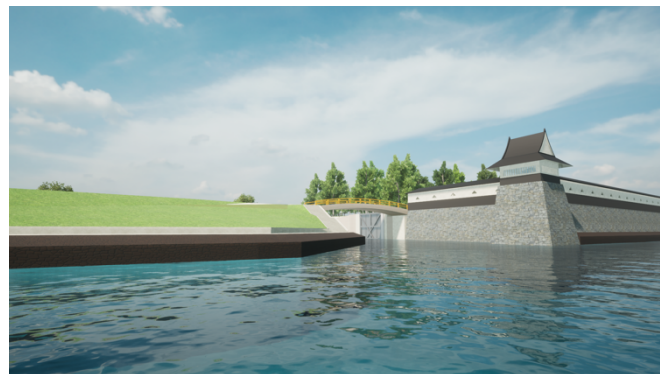


図 17 船に乗って揖斐川から蟠龍櫓を眺める

参考文献

- 1) 土木学会 編 (1991) 『港の景観設計』 技報堂出版株式会社
- 2) 桑名市公式ホームページ
(<https://www.city.kuwana.lg.jp>)

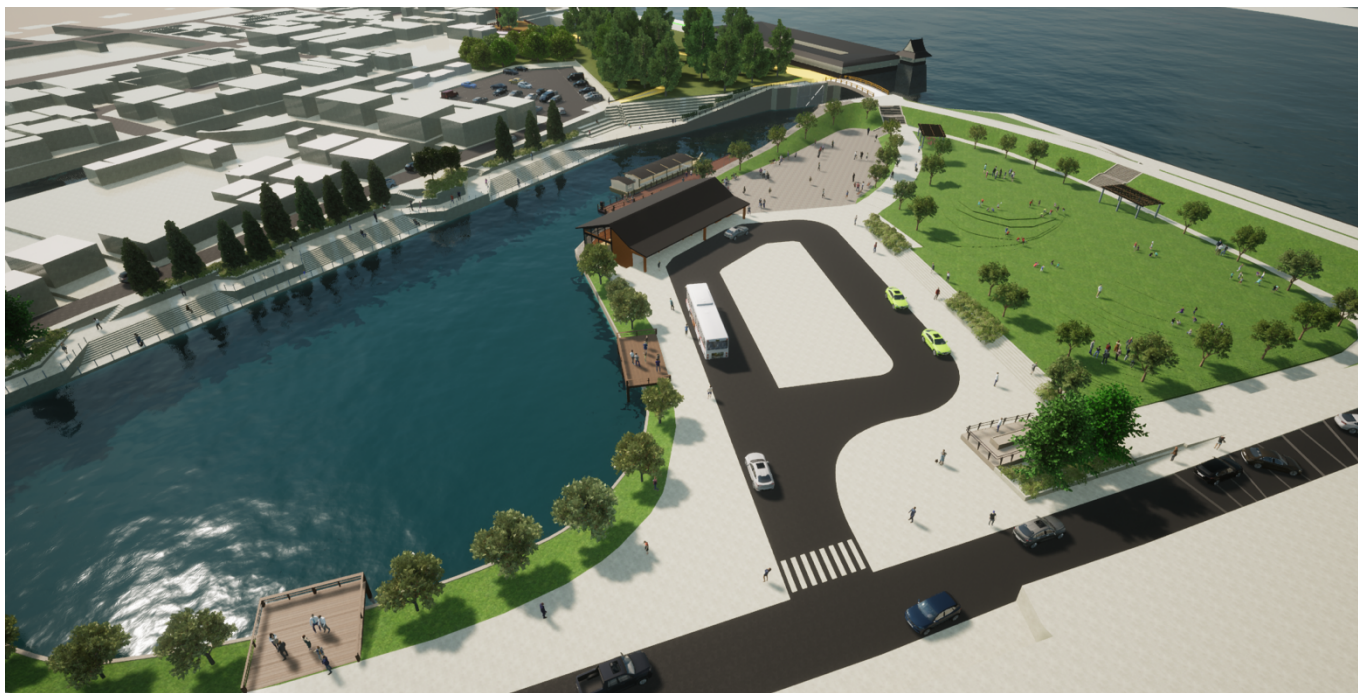


図 18：全体完成予想図